

# 第4次練馬区男女共同参画計画 評価報告書

令和3年3月  
練馬区男女共同参画推進懇談会

## 評価報告書の作成にあたって

練馬区では、昭和60年から「練馬区婦人行動計画」、平成13年以降は「練馬区男女共同参画計画」を策定し、現在の「第5次練馬区男女共同参画計画」に至っています。私たち練馬区男女共同参画推進懇談会（以下「懇談会」という。）は、昭和57年に婦人問題懇談会として発足して以降、これら計画に対して、意見や提言を行うというような方法で策定に関わってきました。また、計画策定後は、事業案や進捗状況に対する意見書等を提出することにより、計画実現のための事業等の改善を求めてきました。

この度、第4次練馬区男女共同参画計画の実施状況が提示されたことを受けて、懇談会として、その目標、実施状況、重点取組、施策内容について点検を行い、評価をし、意見を付することにより、本「評価報告書」を完成させました。5つの目標と、目標それぞれについての課題、重点取組の視点、指標、施策と主な取組の内容に関して、進捗状況および達成状況について評価（各目標につき3点満点を基準とする数値評価）を行いました。また、それぞれの施策および目標ごとの全体像に対して意見を付することにしました。

そこで、今後の練馬区の一層の男女共同参画推進に資するために、具体的には、「第5次練馬区男女共同参画計画」の実施にも活かされるように、以下の点に留意をお願いします。

第一は、数値目標が3点満点中2.5点未満の目標については、その達成度が2.5点以上となるように、さらなる具体的で有効的な取組を実施してほしいということです。

第二は、それぞれの意見からもうかがえるように、総合性・多様性への課題対応の必要があります。男女共同参画計画を核としながらも、他の行政計画との関連性・整合性を十分に意識した施策を展開してほしいということです。

第三は、とりわけ令和2年度を襲った、また令和3年度も予想されるコロナ禍における事業のあり方や情報発信方法、施設の環境整備のあり方等を工夫して実効性を確保してほしいということです。男女共同参画推進のために、人と人をどうつなげるか、人と社会をどのようにつなげるか、そのための活動や取組をどう進めていくか、という課題です。

第四は、第三とも関連しますが、コロナ禍の中で今まで潜在していた問題が顕在化してきている状況（貧困の女性化、DV・虐待・孤立・自死増等）があります。これらへの対応は、男女共同参画推進にとっても緊急の課題となっています。実態を把握し、的確な男女共同参画行政サービスにつなげられるよう取組の迅速化・強化を求めたいと考えます。

以上のような「評価報告書の作成にあたって」を付して、「第4次練馬区男女共同参画計画評価報告書」を提出します。ご検討のほど、どうぞよろしくお願い致します。

令和3年3月

練馬区男女共同参画推進懇談会

会長 片居木 英人

## 第4次練馬区男女共同参画計画 評価報告書

### 目標 人権の尊重と男女平等の意識を形成する

#### 1 実施状況

指標	26年度現況	31年度目標	30年度現況
社会全体として男性のほうが優遇されていると感じる区民の割合	男性 64.8% 女性 73.1%	26年度現況から減少	男性 67.6% 女性 79.9%
配偶者からの暴力の相談窓口の周知度	—	男女とも70%	男性 29.9% 女性 37.7%

重点取組	所管課評価
教職員等の研修・意識啓発の充実	計画どおり実施した
男性に向けてのメッセージ発信および啓発事業	計画どおり実施した
男女共同参画応援サイトの新設	一部変更して実施した
メディア・リテラシーの向上、情報モラルの育成	計画どおり実施した
練馬区配偶者暴力相談支援センターの充実	計画どおり実施した

#### 2 懇談会の評価・意見

##### (1) 評価

評価	
2.50	3点満点

##### (2) 意見

<p><b>&lt;施策1&gt; 教育・学習の場における男女平等意識形成の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権・男女共同参画には保育園・幼稚園・学校等での幼少期時代からの継続的な学習が重要である。</li> </ul> <p><b>&lt;施策2&gt; 男性における男女平等意識の形成促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性に向けてのメッセージ発信は、興味がない人にも届く方法に取り組んでほしい。</li> <li>男性に向けての啓発事業は、参加者数が更に多くなるような取組が必要と考える。</li> </ul> <p><b>&lt;施策3&gt; 男女共同参画の視点に立った制度・慣習・慣行の見直しと啓発の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画応援サイトの新設については、計画を変更して実施とのことで、所管課評価は「C」としているが、実施時にやむを得ない事情や、より効果が期待できる方法があれば、計画の変更は前向きに捉えて評価して良いと考える。</li> </ul>
---

- ・応援サイトの新設が、情報を必要とする人がアクセスしやすいかを検討してほしい。
- ・教育、職場、家庭その他あらゆる場面での人権を侵害する行為が社会的問題として急速に顕在化しているので、社会情勢に応じて取組内容を拡大する等柔軟に対応することを望む。
- ・小中学生を含む若い世代への啓発等にも力を入れてほしい。

#### <施策4> メディアにおける人権の尊重

- ・メディア形態そのものの進化やメディアを取り巻く環境が著しく変化していくので、取組内容を常に見直し、現実に適応させていく努力が望まれる。
- ・昨今、SNSによる誹謗中傷やいじめが大きな社会問題となっている。青少年や子どものみならず大人にとっても、大きな問題である。メディア・リテラシーや情報モラルについては積極的に啓発してほしい。

#### <施策5> 配偶者暴力等防止と被害者支援の充実

- ・配偶者からの暴力の相談窓口の分かりやすい広報と安心して利用できる場所であることを更に案内する必要がある。
- ・配偶者暴力等防止と被害者支援の充実は、社会的に深刻な問題であり、ニーズも高いこともあると思うが、重点項目に限らず、各取組についても実績が認められる。関係機関の連携がはかられていること、相談体制を重視されていることは今後も期待したい。
- ・DV等暴力の防止は命にかかわる問題であるので、暴力の裏にある事情は多様だが、信頼される相談員の育成と共に、更なる充実した支援の継続を望む。

#### <目標 全体について>

- ・「人権の尊重と男女平等の意識を形成する」という目標に関して、重点取組事項は対応している。「教職員等の研修・意識啓発の充実」に関しては、教育とジェンダーという視点から、子どもたちの意識形成という実施策（項目）を入れて実際に展開できると、より効果的ではないかと考える（例えば、リーフレットや動画等の授業での活用等）。
- ・人権の尊重と男女平等の意識の醸成は、考えられるあらゆる形での情報提供の実施と共に、次代を担う子どもたちへの教育の中で行うべきである。
- ・これまで区としてきちんと取り組まれていると感じる。各情報提供の在り方は対象とする年齢層によって様々（紙媒体でないと読まない世代、デジタルを好む世代に分かれる）と思うので、情報を求める人に届きやすい形を考えていかなばと思う。
- ・性別、世代を超えた意識啓発の活動が充実している。イベントや講座の参加者の満足度も高く、今後も強化を望む。
- ・性的マイノリティの人への配慮や支援も期待する。
- ・更に区民の参加者を多くする仕組み作りが5次計画では必要と考える。

目標 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する

1 実施状況

指標	26年度現況	31年度目標	30年度現況
職場において男女平等と 感じている区民の割合	男性 27.8% 女性 16.2%	26年度現況から増加	男性 20.1% 女性 11.1%
家庭における男性の家 事・育児等への平均従事 時間（1週間）	8時間	16時間	9.3時間

重点取組	所管課評価
区内事業者への事例紹介、啓発事業	計画どおり実施した
女性の就労、起業を応援する事業の実施	計画どおり実施した
男性の意識改革、働き方改革の普及啓発	計画どおり実施した

2 懇談会の評価・意見

(1) 評価

評価	
2.31	3点満点

(2) 意見

<施策1> 働く場における男女平等の推進

- ・経済課、健康推進課などと共同で企画を行ったりすることは、とても良い。
- ・講座に参加してくれた人たちが講師となり、各地域で講座等を行うことができれば、より身近になると思う。
- ・区内事業者への事例紹介、啓発事業について、何社に対して実施したのか。事業者向けの啓発比率の向上を上げることが必要と考える。
- ・男性の育児休業取得についての取組を加えてほしい。
- ・「職場において男女平等と感じている区民の割合」の数値の低さの原因を分析する必要がある。

<施策2> 女性の就労、再就職、能力開発に関する支援

- ・ハローワーク、労働局など、就労にかかる専門機関との共催の機会が見受けられる。公的な制度の周知に有効であり、評価したい。

- ・女性の就労・起業を応援する事業について、講座等の内容が支援に沿ったもので時代にも合っている。保育環境があることが評価に値する。

<施策3> ワーク・ライフ・バランスの啓発と環境整備

- ・男性の意識改革・働き方改革の普及啓発は、生活部面での具体的例を示すと従事時間も増えていく可能性があると考えます。
- ・ワーク・ライフ・バランスの在り方が世代でだいぶ異なる印象を受ける。区としてはよい取組を数々行っていると思うが、啓発事業に参加している方の年代もわかると、より評価もしやすくなるのではと思う。
- ・男性の家事・育児等への従事時間については、企業なども含めて継続的に啓発してほしい。
- ・コロナ禍でテレワークが進み、家庭生活における女性の負担増が懸念される。一方、家事や育児といった無償の労働の重みが男性にも理解されつつあると思う。男性だけでなく家庭（親）の意識改革に向けて啓発を進めてほしい。
- ・各地域で取り組めるとよい。

<目標 全体について>

- ・「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する」という目標に関して、重点取組事項はやや「啓発」「普及」という一般論にとどまっているようである。実際に、どのような日常生活の場面にどのような関わりをしていくのか、という具体的例あるいは数値時間目標が示されると、男性の家事・育児への平均従事時間（1週間）も増えていくのではないかと考える。
- ・実に多様な取組を通して、改革や普及啓発を図ろうとする努力について評価したい。
- ・個人（労働者）に対しては、様々に取り組まれており、一定の実績を上げていると思うがワーク・ライフ・バランスについては、事業者の法令遵守、制度の適正運用が重要である。第5次計画では、事業者自身が自社の状況の適否を確認できる機会（法令等を正確に把握した上での自己診断とその評価など）があると望ましい。
- ・事業者の理解無くしてワーク・ライフ・バランスを推進することは難しいので、第5次計画では、事業者向け啓発活動に注力すべきと考える。
- ・法人会や労働基準監督署との協同、モデル事業の表彰等のインセンティブも有効だと思う。
- ・計画通りの実施がされていても、短期での結果にはつながりにくいので、今後も息の長い活動を継続すべきである
- ・家庭における男性の家事・育児への関わりなどは育てられ方で変わるので、生活科や家庭科等の授業を通して、子供の世代から教育していく必要性を感じる。

目標 あらゆる場における男女平等への理解と共同参画を推進する

1 実施状況

指標	26年度現況	31年度目標	30年度現況
区の審議会等の女性委員の比率（法令等で資格要件のあるものを除く）	38.4%	50%	37.1%

重点取組	所管課評価
区の審議会等委員への女性の積極的な登用	計画どおり実施したが課題が残った
啓発の担い手となる区民向けの男女共同参画に関する講座の実施	計画どおり実施した
若年女性に向けての支援	計画どおり実施した
ひとり親家庭への支援	計画どおり実施した
女性防災リーダーの育成	計画どおり実施した

2 懇談会の評価・意見

(1) 評価

評価	
2.44	3点満点

(2) 意見

<施策1> 政策・方針決定過程における男女共同参画の推進

- ・区の審議会等委員への女性の積極的な登用の更なる具体的取組が求められる。各種の名簿に予め女性の比率を明記し、それにしなかった登用を確保するなど「積極的格差是正」を導入していく必要があると考える。
- ・審議会等の女性委員の比率は分かりやすい指標ではあるが、適材適所に人員が配置されることに重きを置くべきだと思うので、現況をマイナス評価とは思わない。
- ・女性の積極的登用については区側だけの改善だけでは無理なことかと思うが、引き続き、女性が参加しやすい取組を期待する。

<施策2> 地域活動での男女共同参画の促進

- ・講座の開催なども積極的に実施していると思うが、アンテナを張っている方にしか届きにくいので、気軽に相談できるような「おしゃべりの場」が求められているのかなと感じる（SNSを利用するなど）。

<施策3> 誰もが安心して地域で暮らせるための支援

- ・ひとり親家庭への支援について、各種の相談実績があげられているが、相談内容の分析ができると、求められる支援、実効性のある支援につながると思う。
- ・ひとり親家庭への支援は、若年のシングルマザーが増えている中、ひとり親家庭支援ナビのアクセス数も増加傾向にあり評価できると思う。
- ・若年女性やひとり親家庭への支援は、今後も重要課題として、是非重点取組の維持を希望する。
- ・誰もが安心して地域で暮らせるための支援は多方面にわたるため、今後も行政の横のつながりにより、男女共同参画計画を担うよう期待する。
- ・周知の方法について、積極的なSNS活用など強化を図って欲しいと思う。

<施策4> 女性の視点・ニーズを取り入れた防災体制の強化

- ・女性防災リーダーは、拠点や地域社会において本当に必要である。これからも積極的に推進してほしい。
- ・女性防災リーダーの育成について、参加者の満足度がとても高く、保育環境もあり、女性が積極的に参加できるものとなっている。効果の期待度も高い。
- ・女性防災リーダー育成講座はすでに何年も実績があるので、第5次計画では、発展した取組の実施を期待したい。
- ・防災リーダーだけでなく、防災体制の中に若年層を取り込むよう進めてほしい。
- ・各避難拠点運営連絡会における女性比率の向上も改善すべきと考える。
- ・防災マニュアル等の喫緊の課題については、引き続き女性の視点からの改善がなされることを大いに期待する。

<目標 全体について>

- ・「あらゆる場における男女平等への理解と共同参画を推進する」という目標は、どうしても理念的宣言にとどまりやすい。実効性のある施策は構成メンバーとして一定数、女性に割り当てる制度の導入だろう。
- ・女性への支援が多く、「男女の均衡」や高齢者、障害者、外国人に向けた活動があまり見えてこない。
- ・女性の視点による防災はとても重要だと考える。また、LGBT、子ども、高齢者、障害者、外国人など、あらゆる人に配慮した施策を望む。

目標 生涯を通じたところとからだの健康を支援する

1 実施状況

指標	26年度現況	31年度目標	28年度現況(最新)
65歳健康寿命の延伸 (東京保健所長会方式)	男性 80.9歳 女性 82.3歳	男性 81.4歳 女性 83.0歳	男性 81.1歳 女性 82.6歳
重点取組		所管課評価	
「性と生殖」に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス&ライツ)に関する啓発 予防対策の推進		計画どおり実施した 計画どおり実施した	

- ・少子化がなかなか改善されにくい中で、安心して子育てができる地域としての支援の充実と共に、そのPRについても積極的にしてほしい。特に、核家族化している若い世代が子育てしやすいよう、地域の力が利用しやすい仕組みをもっと行政主導で作れないかと思う。
- ・がん検診受診率は低いですが、全員に案内を送付していることで意識が変わっていくことが期待できる。
- ・精神疾患や依存症への支援については、実績も高く、区民のニーズがうかがえるが、第5次計画では、取組についてやや縮小されているように感じる。新型コロナウイルス感染症の影響で、健康面への課題が大きい中、こころのケアも一層ニーズが高まることが予想されるため、重視していただきたい。

2 懇談会の評価・意見

(1) 評価

評価	
2.81	3点満点

(2) 意見

< 施策1 > 互いの性や健康に関する理解の促進

- ・「リプロダクティブ・ヘルス&ライツ」で重要な点は、セクシュアル・ライツ(性的人格権)がその中心に存在するという点である。性暴力加害・被害の防止、性被害の加害・被害の防止、望まない妊娠・出産の予防・事後対応(女性福祉支援)という施策が前面に押し出される必要があると考える。
- ・「親子で学ぶ性と性講座」はとても良い企画だと思う。今後も拡充して貰いたい。
- ・リプロダクティブ・ヘルスの啓発は、是非とも子どもたちや若者にも積極的に行ってほしい。また、彼らに影響を与える親世代に対する啓発も重要である。
- ・教育委員会と協同して、各学校区単位にて親子での啓発事業を実施したほうが良い。

< 施策2 > 生涯を通じた健康支援

- ・予防対策の推進については、取組を目にする機会もあり、活発な活動を実感している。
- ・寿命の延伸だけでなく、からだと心のバランスの取れた生涯になるような取組が必要である。

< 目標 全体について >

- ・「生涯を通じたところとからだの健康への支援する」という目標 - 課題 - 重点取組の視点は、対応しているが、指標「65歳健康寿命の延伸」という項目は直接に関係するものではないと考える。むしろ強調されるべきは「性と生殖に関する権利」である。健康に焦点化すると、高齢期における健康支援という全般的テーマと同一化してしまうおそれがある。次回計画策定に向けての課題であると考え。
- ・指標と重点取組の1つ目のつながりが分かりにくい。
- ・希望する時期に安心して妊娠、出産、子育てができるような社会の仕組み、社会意識の醸成を図りつつ、男女の区別なく生涯を通じた心身の健康支援という第4次計画のマインドもきちんと取り入れていく活動を期待する。
- ・講座やパネル作成、配布物等、働きかけ方が多岐に渡り、充実している。
- ・性に関する講座など、若い世代への啓発を引き続き進めてほしい。

目標 積極的に施策の推進に取り組む

1 実施状況

指標	26年度現況	31年度目標	30年度現況
区の男女共同参画事業の認知度	31.9%	50%	32.9%

重点取組	所管課評価
職員等の研修・意識啓発の充実	計画どおり実施した
男女共同参画センター事業の充実	計画どおり実施した
区民、区内で活動する団体・事業者との連携・協働の推進	計画どおり実施した

2 懇談会の評価・意見

(1) 評価

評価	
2.50	3点満点

(2) 意見

< 施策 1 > 施策推進体制の整備・充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定事業主行動計画の推進の中で、男性の育児休業取得率は20%と一般に比すればかなり高い数字である。区の職員が施策の推進モデルとして働きやすい職場の実現に専心し、その結果を一般企業にも広めてほしい。</li> <li>・職員等の研修・意識啓発の充実について、各受講率100%となっていることは評価に値する。今後は、全受講者へのアンケートを実施し、問題点の抽出や、理解度を定量的な観点で見える化するべきと考える。</li> <li>・区の男女共同参画センター事業は、「男女共同」を「地域に生きる誰にとっても共生」に、視野を広く展開できるかが課題であると思う。</li> <li>・男女共同参画センター事業が担えるものは多様にあると思うので、引き続き区民や区内で活動する団体・事業者との連携・協働の推進を続けていくよう望む。</li> <li>・えーるで価値の高い企画に参加してきた。人生観が変わるほどの体験であった。今後も企画を充実させてほしい。</li> <li>・男女共同参画センターを各地域に増設してほしい。</li> <li>・区内で活動する団体との連携・協働の推進が、認知度を上げることにつながると期待できる。</li> <li>・現状の32%という認知度は悪くないと思う。</li> <li>・広報を積極的に進めてほしい。</li> </ul>

< 目標 全体について >

- ・「強制・差別・暴力を受けることがない」が男女共同参画推進の核心である。この核心を変化する時代状況の中で、多角的な視点からどのように具体的な施策として進めていくことができるのか。次回計画は、各目標の意味内容を点検し、全体として意識的に関連づけ、区の行政施策としてより具体化できるよう取り組む必要があると考える。
- ・第5次計画では、目標という位置づけから外れたため、施策の推進に向けた取組や実績を把握する機会がどうなるか確認したい。
- ・事業の幅を増やして色々なアプローチで区民と関わってほしい。
- ・一人一人が大事にされる生きやすい世の中であるためには、地域が緩やかに繋がることが大事であると、私たちは大きな災害を通じて痛感した。行政が取り持つ役割は大変に大きいと思う。男女共同参画センター事業自体の益々の浸透、それに伴い、それぞれの地域が地域の実情にあったつながりを持てるように、今後も旗振り役を期待する。
- ・コロナ禍の中で、事業のあり方や情報の発信方法、施設的环境整備など工夫していただき、さらに発展するよう期待している。
- ・更に区民や、区内で活動する団体・事業者との連携を深める施策を深耕するべきと考える。
- ・男女共同参画センターは、目標に対する貢献度が高い。「えーるフェスティバル」はもとより、相談窓口の充実や新たな講座などを実施した。また、分かりやすい展示の実施など努力をしていた。